

公益財団法人 にいがた文化の記憶館
平成29年度 事業報告
平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

1. 概況

展示事業 29年度は企画展示4本と新潟市會津八一記念館特別展（貸館）1本の5本の事業を行いました。年間の入館者総数は4,737人（うち有料2,952人）でした。4本の当館企画展示の入館者総数は2,837人（うち有料1,765人）でした。

I. 「出版文化と越後人—博文館、実業之日本社、ダイヤモンド社、第一書房—」

平成29年4月7日（金）～6月25日（日） 69日間

入館者数 644人（うち有料274人）

II. 「漂泊の俳人—井上井月」

平成29年7月7日（金）～9月24日（日） 69日間

入館者数 919人（うち有料595人）

III. **貸館** 新潟市會津八一記念館特別展「禅」早稲田大学會津八一記念博物館・富岡コレクションを中心に

平成29年10月6日（金）～12月10日（日） 56日間

入館者数 2,011人

IV. 「露谷虹児生誕120年記念 少女人気を二分した抒情画家 虹児と華宵」

平成29年12月15日（金）～平成30年2月12日（月・祝） 46日間

入館者数 771人（うち有料603人）

V. 「近代詩のパイオニア 堀口大輔」

平成30年2月23日（金）～4月15日（日） 45日間

入館者数 503人（うち有料293人）

うち29年度は2月23日（金）～3月31日（土）32日間で入館者数360人（うち有料212人）

これら企画展示で13人の文化人を紹介し、顕彰館や団体から貴重な資料をお借りして展示しました。

教育普及事業 定例の作品解説会「月いちレクチャー」（原則：毎月第4土曜開催）に加えて、3本の企画展示関連事業を開催しました。参加者総数は345人（前年比55.1%）で、内訳は「月いちレクチャー」が103人（前年比63.1%）、関連事業は242人（前年比56.5%）、小中学校による団体観覧（総合学習含む）では30校416名（前年比2校増）が来館しました。特に、4月から6月にかけて総合学習で多数の中学生が来館しました。館外では、フリーペーパーへの寄稿、館長や学芸員による講演活動を行いました。

連携・交流事業 31年度の国民文化祭開催を踏まえて、第4回ネットワーク協議会を開催しました。30～31年度は国民文化祭を軸に、県内顕彰施設や団体との連携を進めたいと考えています。

調査及び研究・研修事業 文化人データベース構築作業に取り掛かりました。また、当館で紹介してい

る文化人についての講演会や勉強会に学芸員らが参加して、顕彰施設や団体と交流しました。

広報 27年度から一般財団法人新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NSTの3団体から助成または共催をいただき、企画展示ごとに新聞広告やテレビCM、ラジオCMで広報を展開しました。ホームページに「維持会」、「刊行物」、「ミュージアムショップ」のページを追加しました。

2. 利用状況

開館日	休館日	入館者総数	うち有料	普及事業参加者総数
272日／365日間	93日／365日間	4,737人 (※新潟市會津八一記念館特別展入場者数を含む)	2,952人	345人 (作品解説会および企画展示関連事業)

※平成28年度実績：開館日258日間 入館者総数6,114人 普及事業参加者総数626人

※29年度の当館企画展示のみの入場者数は2,694人（うち有料1,684人）。

※29年度の企画展示「近代詩のパイオニア 堀口大學」の会期が4月15日（日）までだったため、4月1日（日）から4月15日（日）までの入場者数は除く。

3. 展示事業

① 常設展示

ケル	テーマ名	会期	開催日数	備考
前期	① 受賞者「式場龍三郎と山下清」 ② 医学「新潟の文人医師たち」 ③ 女性「『青鞥』の新しい女」 ④ 美術「駒形十吉と長岡現代美術館」 ⑤-1 文学「増田義一書簡」*1 ⑤-2 文学「相馬御風と井上井月」	4/7(金) ～ 9/24(日)	138	*1. ⑤-1 は企画展示「出版文化と越後人」の関連展示(展示期間:4/7～6/25)。 *2. ⑤-2 は企画展示「漂泊の俳人一井上井月」の関連展示(展示期間:7/7～9/24)。
後期	① 受賞者「伊藤赤水と玉川宣夫 BSN新潟放送所蔵品より」 ②-1 文学「會津八一『観音堂』」*1 ②-2 文学「詩人・西脇順三郎」*3 ③ 新潟の女性「少女人気を二分した抒情画家 落谷虹児と高島華宵」*2 ④-1 美術「落谷虹児と師・尾竹竹坡一自伝小説『花嫁人形』より」*2 ④-2 美術「三輪晁勢と堀口大學」*3 ⑤ 医学「森鷗外の『舞姫』事件」	10/6(金) ～ 30/4/15(日)	134 (～4/15 =147)	*1. 貸館「禅展」の関連展示(展示期間:10/6～12/10)。 *2. ③と④は企画「虹児と華宵」の関連展示(展示期間:12/15～2/12) *3. ②-2と④-2は企画「近代詩のパイオニア 堀口大學」の関連展示(展示期間:2/23～4/15)
通	文化勲章(9名)	4/7(金)	272	

年	文化功労者（11名）	～ 30/3/31(土)		
	人間国宝（5名）			

② 企画展示

I 「出版文化と越後人― 博文館、実業之日本社、ダイヤモンド社、第一書房 ―」

会 期	平成 29 年 4 月 7 日（金）～ 6 月 25 日（日） 69 日間
主 催	にいがた文化の記憶館、新潟日報社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN 新潟放送、NST
趣 旨	明治中期以降、近代的な印刷技術の発展とともに、政治的な主張などを広く伝えるための新聞、雑誌の発行が盛んになりました。こうした時代の中で、出版業界および書籍流通業界でさまざまな活躍をした複数の越後人を紹介。
紹介文化人	大橋佐平（長岡市）、大橋新太郎（長岡市）、坪谷善四郎（加茂市）、増田義一（上越市）、石山賢吉（新潟市）、長谷川巳之吉（出雲崎町）
協力団体及び個人	加茂市立図書館、上越市公文書センター、三康図書館、長岡市立中央図書館、新潟市會津八一記念館、池田記念美術館、博文館新社、実業之日本社、ダイヤモンド社
展 示	出版社ごとに関連資料や写真パネルなど計 94 点を展示した。専門的な内容は分かりやすい解説を心掛けた。ご寄贈いただいた書籍や雑誌を閲覧してもらうため、スペースを設けた。
関連事業	① 講演会「出版文化をつくった越後人～博文館からベース・ボールマガジン社まで～」 参加者数：50 人 開催日：5 月 30 日（火） 会場：メディアシップ 6 階 ナレッジルーム 講師：神林恒道館長 ② 月いちレクチャー「出版文化と越後人」全 3 回 参加者総数：16 人 開催日：4 月 22 日（土）、5 月 27 日（土）、6 月 24 日（土） 会場：にいがた文化の記憶館 担当：秋岡啓子
広 報	・チラシ（A4、両面カラー、割引券付、10,000 部）、ポスター（B2、片面カラー、400 部）：県内顕彰施設や図書館などに発送 ・新聞広告：新潟日報（18 回掲載） ・テレビ CM：NST ・ラジオ CM：BSN 新潟放送 ・ホームページ：当館、メディアシップ、NST イベントページ、新潟文化物語
掲載記事	4 月 8 日（土）新潟日報「出版界で活躍 県人業績紹介」 5 月 7 日（日）新潟日報 日報抄 5 月 10 日（水）新潟日報「県人の功績 誇らしく 知事「文化の記憶館」見学」 5 月 27 日（土）新潟日報 お江戸じょんのび便り（河治和香著）「本邦雑誌界の霸王 増田義一の業績に感服」 5 月 31 日（水）新潟日報「出版界築いた県人紹介 メディアシップで講演会」 6 月 3 日（土）新潟日報夕刊おとなプラス「プレゼント 企画展招待券」 6 月 8 日（木）新潟日報 展覧会へようこそ「出版文化と越後人 流通や販売の基礎築く」
入館者数	644 人（うち有料 274 人）
総 括 （展示全般および地域への関わりと効果など）	○評価点 ・昨年春の「越後人のねばり」展に引き続き、一つのテーマで複数の新潟人を紹介するという当館らしい企画が出来た。 ・東京の出版社から、普段なかなか実物を見ることができない資料を借りて展示することができた（実業之日本社、ダイヤモンド社）。 ・調査に際し、加茂市立図書館に坪谷善四郎の資料が多く所蔵されていることが分かった。特に、多く残された書簡類からは出版人・政治家として幅広く活躍した坪谷の人脈が伺えた（当館顕彰人物では、大橋佐平・新太郎のほか、前島密、石黒忠恵、堀口九萬一、増田義一、相馬御風、増村朴斎、芳澤謙吉などの書簡あり）。 ・この企画展をきっかけに、ダイヤモンド社石山賢吉顕彰会から寄付や、本の寄贈を受けた。 ・講演会のアンケートでは「出版界という狭い範囲だったが、つながりの広い世界が紹介され、とても楽しく聴けた。すばらしい越後人！！」（70 代・男性）、「新潟県人の日本を代表する業績

	<p>をあげた内容がよく分かった。特に出版事業についての人物像があきらかになった。新潟県人はもっとそれを知り、自信をもつ手がかりとすべきと思った」(70代・男性)などの声があった。</p> <p>■検討課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5～6月は中学校の総合学習としての来館が見込めるため、イラストを使ったクイズ形式のポスター、チラシを作成するなどして若年層へのアピールをしたつもりだったが、学生の来館は多くなかった。現状では難しいが、少し専門的なテーマのときは子ども向けの解説を作った方がいいかもしれないと感じた。 ・講師都合により当初予定していた講演会を行うことができず、残念だった。
担当	秋岡 啓子

II 「～芥川がうなり 山頭火があこがれた～ 漂泊の俳人―井上井月」

会 期	平成 29 年 7 月 7 日 (金) ～ 9 月 24 日 (日) 69 日間
主 催	にいがた文化の記憶館、新潟日報社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN 新潟放送、NST
協 力 企 業	田村紙商事株式会社
協 力 趣 旨	<p>伊那市創造館、一般社団法人井上井月顕彰会、糸魚川歴史民俗資料館《相馬御風記念館》</p> <p>小林一茶とともに信州を代表とする俳人・井上井月(いのうえ・せいげつ、1822～～1887年)は、長岡藩の武家か刀研ぎ師の家に生まれたといわれる。1839(天保10)年ころ、18歳で長岡を出て江戸へ向かう。芭蕉に憧れて「奥の細道」をなぞるように全国を放浪。1848(嘉永1)年、27歳で信州を訪れて以来、信州、特に伊那の家々を中心に漂泊し、句会を開き俳句を詠み続けた。井月の生き方や書・俳句に共鳴したのが小説家芥川龍之介や室生犀星、俳人種田山頭火。また、良寛研究で有名な相馬御風(糸魚川市出身)や俳諧研究家の木村秋雨(上越市出身)など新潟の文人たちも井月に興味を抱いていた。</p> <p>本展では、新潟県ではほとんど知られていない俳人・井上井月の句や書を中心に紹介した。あわせて、井上井月を題材にドキュメンタリーフィクション映画を撮影した、伊那市出身の映画監督で、井上井月顕彰会会長の北村皆雄氏を招いて、映画(60分版)上映会作と講演会を行った。</p>
紹介文化人	井上井月(長岡市)、相馬御風(糸魚川市)、木村秋雨(上越市)
協 力 団 体 及 び 個 人	糸魚川歴史民俗資料館《相馬御風記念館》、伊那市創造館、一般社団法人井上井月顕彰会、新潟市立中央図書館、新潟県立図書館
展 示	長野県伊那市に残る井上井月の軸や短冊などを中心に、相馬御風記念館の相馬御風旧蔵資料と木村秋雨旧蔵資料から井月関連のものを計 56 点展示した。出品リストには長岡市内に設置されている句碑リストを付記し、来館者が訪れやすいようにした。
関 連 事 業	<p>①映画「ほかいびと―伊那の井月―」上映会・北村皆雄監督による講演会 参加者数：79名 開催日：7月15日(土)午後1時30分～午後3時30分 会場：新潟日報メディアシップ2階 日報ホール 講師：北村皆雄氏(映画「ほかいびと」監督、井上井月顕彰会会長) 進行：大日方英樹氏(新潟日報記者)</p> <p>②ジュニア俳句大会 募集期間：7月15日(土)～8月15日(火) 応募対象：小学生～高校生 選者：織田亮太郎氏(俳句結社「銀化」会員、「とねりこジュニア句会」主宰、新潟県俳人協会会員) 応募句数：〔小学生の部〕2句、1名(1校) 〔中学生の部〕28句、19名(3校) 〔高校生の部〕19句、10名(4校) 応募結果：〔小学生の部〕大賞=該当なし、佳作=1句、入選=該当なし 〔中学生の部〕大賞=該当なし、佳作=3句、入選=5句 〔高校生の部〕大賞=該当なし、佳作=4句、入選=5句</p> <p>③月いちレクチャー「井上井月」全3回 参加者総数：39名</p>

	開催日：7月22日（土）、8月26日（土）、9月23日（土） 会場：にいがた文化の記憶館 担当：石垣雅美
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ（A4、両面カラー、割引券付）15,000部、ポスター（B2、片面カラー、400部）：伊那市、新潟市内の俳句結社、県内顕彰施設や図書館などに発送 ・新聞広告：新潟日報（23回掲載） ・テレビCM：NST ・ラジオCM：BSNラジオ ・ホームページ：当館、メディアシップ、NSTイベント、新潟文化物語、インターネットミュージアム ・雑誌等：「M-Walk 7～9月号」、「月刊キャレル 8/20号」、「月刊新潟 Komachi 8/25号」
掲載記事	<p>7月7日（金）新潟日報「井上井月テーマ 映画上映と講演 15日、新潟」</p> <p>7月8日（土）新潟日報夕刊おとなプラス「プレゼント 企画展招待券」</p> <p>7月9日（日）新潟日報「漂泊の俳人 足跡たどる 新潟で井上井月展」</p> <p>7月16日（日）新潟日報「漂泊の井月 魂に触れて メディアシップで講演会」</p> <p>7月26日（水）新潟日報「子ども俳句大会 自由題作品募る 文化の記憶館」</p> <p>8月5日（土）信濃毎日新聞「井月の軌跡 資料でたどる 新潟で展示 伊那で所蔵の短冊も」</p> <p>8月31日（木）新潟日報 窓欄「企画展で井上井月に興味」</p> <p>8月31日（木）信濃毎日新聞「新潟 漂泊の俳人 井上井月」</p>
入館者数	919人（うち有料595人）
総括 （展示全般および地域への関わりと効果など）	<p>○評価点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊那市創造館および井上井月顕彰会にご協力いただき、新潟ではほとんど知られていない井上井月の俳句や書を紹介することができた。 ・本展準備にあたり、北一輝など紹介文化人の調査ができた。 ・イベントアンケートでは「このイベントの企画を知るまで、井月のことを知りませんでした。まさににいがた文化の記憶を思い起こすことができ、うれしく思いました。」「出身が長岡なので、こういう人が長岡にいらしたと詳しく知れて興味を持ちました。50代・女性」などの声があった。 ・伊那市の関係者には、井上井月をとおして伊那市と新潟とのつながりを感じてくださった方がいて、展覧会を開催した意味があったと思った。 <p>■検討課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展示が始まってから、「ジュニア俳句大会」をすることとなり、急ごしらえで準備したため、広報ができずに投句数は少なかった。俳句大会などは早めに計画を立てるべきであった。
担当	石垣 雅美

IV 「落谷虹児 生誕120年記念 少女人気を二分した抒情画家 虹児と華宵」

会期	平成29年12月15日（金）～30年2月12日（月・祝） 46日間
主催	にいがた文化の記憶館、新潟日報社
共催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST
協力企業	田村紙商事株式会社
協力趣旨	<p>新発田市・落谷虹児記念館、アルテイズ、株式会社キュレーターズ</p> <p>2018年、生誕120周年を迎える新発田市出身の落谷虹児（1898～1979年）。虹児には、パリ留学時代にサロンに連続入選するなど本格的画家としての一面と、少女雑誌を中心に活躍した抒情画家としての一面がある。</p> <p>本展では後者に焦点を当て、一般によく知られた虹児のイメージを展示。虹児は1920（大正9）年から少女雑誌の挿絵や表紙を描き、絶大な人気を博した。当時、虹児と少女人気を二分した画家が高島華宵（1888～1966年、愛媛県宇和島市出身）。少女たちは「華宵党」「虹児党」などと分かれて、彼らの描く抒情画に夢中になった。</p> <p>大正末から昭和初期の雑誌や、挿絵原画などから当時の流行を振り返るとともに、現代の「かわいい」文化の源流として二人の抒情画家の画業を紹介した。</p>
紹介文化人	落谷虹児（新発田市）
協力団体	新発田市・落谷虹児記念館、アルテイズ、株式会社キュレーターズ

及び個人 展 示	落谷虹児と高島華宵の表紙絵が掲載された雑誌や原画など、参考資料も含めて計 108 点を展示した。
関連事業	月いちレクチャー「虹児と華宵」全 2 回 参加者総数：14 名 開催日：12 月 23 日（土）、1 月 27 日（土） 会場：にいがた文化の記憶館 担当：秋岡啓子
広 報	・チラシ（A4、両面カラー、割引券付）14,000 部、ポスター（B2、片面カラー、400 部）：県内文化施設や中学校、図書館などに発送。三越百貨店で開催の「神の手ニッポンⅡ」展会場に設置。 ・新聞広告：新潟日報 ・テレビ CM：NST ・ラジオ CM：BSN ラジオ ・ホームページ：当館、メディアシップ、NST イベント、新潟文化物語、インターネットミュージアム ・雑誌等：「M-Walk 12～2 月号」
掲載記事	12 月 23 日（土）新潟日報「少女画人気二分『虹児と華宵』展 文化の記憶館」 1 月 31 日（水）新潟日報夕刊おとなプラス 読者のひろば（『虹児と華宵』展にわくわく）
入館者数	771 人（うち有料 603 人）
総 括 （展示全般 および地域 への関わり と効果など）	○評価点 ・現代の「かわいい」文化の源流として、落谷虹児と高島華宵を紹介したことで、若い世代の来館者も見られた。 ・本企画で、県内ではあまり見ることができない高島華宵の資料を展示できた。この企画展示で、高島華宵を知ったというアンケートもあった。 ・アンケートでは、『虹児と華宵』を見に来ました。また大正～昭和の挿絵等を展示してほしいと思います。（現代のイラストレーターも）20 代・女性、『虹児を中心とした人物相関図』があった。わかりやすい。目録にのせてほしい。後、相関図として出してほしい。県立美術館でのフジタ、堀口大学との関係があるとあった。前回の「パリの虹児」とは、ちがっていておもしろい。次回、堀口大学へとつながっておもしろい。50 代・女性、「落谷と高島展示は『おとな』プラスの読者投稿で知りました。新発田に向かなくても虹児の作品を見ることができよかった。華宵ははじめて知りました。よい企画！！ありがとうございました。70 代・女性」などの声があった。
担 当	秋岡 啓子

V 「近代詩のパイオニア 堀口大學」

会 期	平成 30 年 2 月 23 日（金）～ 30 年 4 月 15 日（日） 45 日
主 催	にいがた文化の記憶館、新潟日报社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN 新潟放送、NST
協力企業	田村紙商事株式会社
趣 旨	「私の耳は貝のから／海の響をなつかしむ」で有名な詩人の堀口大學（1892～1981 年）は、長岡市出身の父・丸萬一が海外赴任のため、祖母の家に預けられ、旧制長岡中学（現長岡高校）で学んだ。卒業後に上京し、慶応義塾大学予科に入学したが中退し、外交官になるため父の海外赴任に同行。 滞在先のベルギーでフランス象徴派の詩を見出し、スペインでは女流画家マリー・ローランサンを通じてフランスの詩人・アポリネールの詩に出会った大學は、1925（大正 14）年の帰国後に、訳詩集『月下の一群』を発表。口語や文語を駆使した美しい日本語でフランス象徴派の詩を紹介し、日本の近代詩の発展に大きな影響を与えた。 本展では、著訳書や資料などを通して、近代詩のパイオニアである堀口大學を紹介した。あわせて、長女の堀口すみれ子氏を招いて講演会を行った。
紹介文化人	堀口大學（長岡市）、堀口丸萬一（長岡市）、長谷川巳之吉（出雲崎町）
協力団体 及び個人	堀口大學ご遺族、斎藤三郎ご遺族ほか

展 示	堀口大學とフランスの芸術家たちとの関連パネルや、上田敏『海潮音』から堀口大學までの翻訳、語調の流れをパネルで紹介した。 翻訳者・堀口大學に関連する資料と、詩人・堀口大學として新潟（主に高田時代）とのつながりを見せる資料、参考資料など計 55 点を展示した。
関 連 事 業	① 講演会『与門大學老詩生』父・堀口大學 参加者数：83 人 開催日：3月7日（水） 会場：メディアシップ 2階 日報ホール 講 師：堀口すみれ子氏（詩人・エッセイスト、堀口大學長女） ② 月いちレクチャー「青山杉作」全2回 参加者総数：13人 開催日：2月24日（土）、4月14日（土） 会場：いがた文化の記憶館 担当：石垣雅美
広 報	・チラシ（A4、両面カラー、割引券付）10,000部、ポスター（B2、片面カラー、400部）：県内顕彰施設、図書館などに発送 ・新聞広告：新潟日報（8回掲載） ・テレビCM：NST ・ラジオCM：BSNラジオ ・ホームページ：当館、メディアシップ、NSTイベント、新潟文化物語（新潟県文化振興課）
掲 載 記 事	3月8日（木）新潟日報「父の作品『気骨ある』堀口大學長女すみれ子さん講演」 3月26日（月）新潟日報夕刊 特集「美を愛した詩人 堀口大學」
入 館 者 数	503人（うち有料293人） 29年度（2月23日～3月31日）は360人（うち有料212人） 30年度（4月1日～4月15日）は143人（うち有料81人）
総 括 （展示全般 および地域 への関わり と効果など）	○評価点 ・29年秋に長岡市で行われた堀口大學展とは違うアプローチで、近代詩のパイオニアとしての堀口大學を紹介できた。 ・本企画展示にあわせて、ご長女の堀口すみれ子氏に講演していただいたことで、詩集や翻訳本からでは知ることができない堀口大學の人となりを知る機会となった。 ・イベントアンケートでは「本に書いてない大学の心つかいなどがよく分かりました。70代・男性」、「故郷や母親に対する想いを基に物事に対する温かさ、深さに感動いたしました。70代・女性」、「とても貴重なお話をご長女の方から伺い感激しました。新潟日報の大学の欄を切り抜き、心のかてにしております。昨年は柏崎市に出掛け、「堀口大學展」を見ました。70代・女性」などの声があった。 ・堀口大學の詩を愛する方からご協力いただき、本企画に沿った展示内容となった。それにより、堀口大學と第一書房・長谷川巳之吉との関係性をさら調査することができた。 ■検討課題 ・事前準備が進められなかったために、当初の企画案から変更した内容となってしまった。
担 当	石垣 雅美

4. 教育普及事業

① 作品解説会「月いちレクチャー」（参加者総数：103人） ※28年度実績：163人

クール	事業名	開催日	内容	参加人数
I	「出版文化と越後人①」	4/22（土）	担当：秋岡 啓子	6人
	「出版文化と越後人②」	5/27（土）	担当：秋岡 啓子	4人
	「出版文化と越後人③」	6/24（土）	担当：秋岡 啓子	6人
II	「漂泊の俳人一井上井月①」	7/22（土）	担当：石垣 雅美	13人
	「漂泊の俳人一井上井月②」	8/26（土）	担当：石垣 雅美	13人
	「漂泊の俳人一井上井月③」	9/23（土）	担当：石垣 雅美	15人
III	特別編「美術コレクター・富岡重憲①」	10/28（土）	講師：湯浅 健次郎 氏（會津八一記念館学芸員）	12人
	特別編「美術コレクター・富岡重憲②」	11/25（土）	講師：湯浅 健次郎 氏（會津八一記念館学芸員）	7人

IV	「麓谷虹児①」	12/23(土)	担当：秋岡 啓子	7人
	「麓谷虹児②」	1/27(土)	担当：秋岡 啓子	7人
V	「堀口大學①」	2/24(土)	担当：石垣 雅美	9人
	「堀口大學②」	3/24(土)	担当：石垣 雅美	4人

② 企画展示関連事業（参加者総数：242人） ※28年度実績：428人

ケル	事業名	開催日	内容	参加者数
I	館長講演会 「出版文化をつくった越後人～博文館からベースボール・マガジン社まで～」	5/30(火)	講師：神林 恒道 館長 会場：メディアシップ 6階 ナレッジルーム	50人
II	映画「ほかいびと—伊那の井月—」上映会・北村皆雄監督による講演会	7/15(土)	上映作品：「ほかいびと—伊那の井月—」 (北村皆雄監督、2012年) 講師：北村 皆雄 氏 (映画「ほかいびと」監督、井上井月顕彰会会長) 進行：大日方 秀樹 氏 (新潟日報記者) 会場：メディアシップ 2階 日報ホール	79人
	にいがた文化の記憶館「漂泊の俳人一井上井月」・會津八一記念館「芝蘭の交わり～八一と麻青の書画」開催記念 ジュニア俳句大会	8/25(金) ～ 9/24(日)	募集期間：7/15～8/15 展示期間：8/25～9/24 展示場所：記憶館入口横にてパネル展示 応募対象：小学生～高校生 選者：織田亮太郎氏 (俳句結社「銀化」会員、「とねりこジュニア句会」主宰、新潟県俳人協会会員) 応募句数：〔小学生の部〕2句、1名(1校)、 〔中学生の部〕28句、19名(3校)、 〔高校生の部〕19句、10名(4校) 応募結果 (入選以上は副賞あり)： 〔小学生の部〕大賞＝該当なし、佳作＝1句、入選＝該当なし 〔中学生の部〕大賞＝該当なし、佳作＝3句、入選＝5句 〔高校生の部〕大賞＝該当なし、佳作＝4句、入選＝5句	30人
V	堀口すみれ子氏による講演会 「与門大學老詩生」父・堀口大學	3/7(水)	講師：堀口 すみれ子 氏 (詩人・エッセイスト、堀口大學長女) 会場：メディアシップ 2階 日報ホール	83人

③ 学校との連携事業（参加者総数：11人）

事業名	期間	内容
校外学習 (新潟市立小瀬小学校 6年生 7名)	11月10日(金)	担当：石垣雅美 内容：事前質問への応答、常設展示の解説
総合学習 (新潟市立白南中学校 1年生 4名)	3月9日(金)	担当：石垣雅美 内容：事前質問への応答、常設及び堀口大學展の解説

※29年度に来館した小中学校数及び生徒数：30校、416名

④ その他事業（執筆活動、講演会など）

■ 執筆活動

No.	タイトル・掲載時期	掲載日	内容	執筆者
1	フリーペーパー『喜怒哀楽』連載寄稿 「にいがた文化の記憶館便り」	4月、6月、 8月、10月、 12月、2月	企画展示の紹介に合わせ、当該 展示で採り上げた新潟ゆかりの 文化人について解説	秋岡 啓子
2	新潟日報「にいがたの一冊」 森洋子著『ブリューゲルの世界』	5月21日(日)	上越市出身の美術史家・森洋子 氏の著作を紹介	石垣 雅美

■ 館外での講演会など（参加者総数：370人、前年比126.7%） ※28年度実績：292人

No.	事業名	開催日	内容	参加者数
1	新潟三越『三遊会』トークイベント 「抒情画家 露谷虹児と故郷にいがた」	11月2日	講師：秋岡啓子 会場：新潟三越7階 催物会場	20人
2	館長連続講座 「芸術学アラカルト～日本美術の創造力 ～」①～⑥	10月4日 ～ 2月16日	講師：神林恒道館長 会場：クロスパルにいがた4階 映像ホール	延べ 350人

5. 調査及び研究・研修事業

■ 研修

当館紹介文化人に関連する講演会や勉強会に学芸員らが参加。

6. 広報

① 新聞掲載記事一覧（企画展示関連記事をのぞく）

No	掲載紙名	掲載日	見出し	執筆者等
1	新潟日報	5/10(水)	「県人の功績 誇らしく 新潟 知事『文化の記憶館』見学」	—
2	新潟日報	11/1(水)	「文化の記憶館が神仏の解説講座 10日、新潟」	—
3	新潟日報	11/11(土)	新潟版「地元縁 文化人学ぶ 中央区」	—
4	新潟日報	3/7(水)	「郷土愛もった人材育てて 新潟南 RC 文化の記憶館に 寄付」	—
5	新潟日報	3/16(金)	「本県縁の文化人、偉人 似顔絵パンフを作製 新中学 1 年生に配布へ 記憶館」	—
6	新潟日報 ふむふむ	1/9(火)～	連載「なるほど偉人県人」 (諸橋轍次、露谷虹児、杉本鉞子、前島密、亀倉雄策、吉 田千秋、司馬凌海、岡田紅陽、水島あやめ、入沢達吉、山 岡荘八、良寛) ※掲載順	—

② パスポート会員・維持会員募集広告掲載一覧

掲 載 紙 名	新潟日報 地域欄 ※展示資料に関連する文化人の出身地の地域に掲載
掲 載 日	毎週水曜
掲 載 内 容 (掲載順)	4月～6月「出版文化と越後人」展示資料（長岡市、新潟市、上越市、出雲崎町） 6月～9月「漂泊の俳人一井上井月」展示資料（長岡市、糸魚川市） 9月～12月「禅展」展示資料（新潟市） 12月～2月「少女人気を二分した抒情画家 虹児と華宵」展示資料（下越、新潟市） 2月～4月「近代詩のパイオニア 堀口大蔵」展示資料（長岡市）

※新潟日報朝刊（毎週水曜）に「年間パスポート会員募集」（通年で掲載）と企画展示資料を紹介。

7. 事業別評価

事業名		評価点 (○)	改善点 (▲)・今後の課題 (■)
展 示	常設展示 (相関図)	○企画展示に関連する資料を常設で参考展示するようにした(例:堀口大學展で西脇順三郎)。それにより、来館者にとって理解を深めるきっかけ作りができた。 ○「森鷗外の『舞姫』事件」では、あまり知られていない、森鷗外と石黒忠憲、小金井良精の新潟県人との関わりを紹介することができた。	▲常設展示の案内掲示を始めた。あわせて、企画展示での展示室図面でも案内を追記した。 ■数年来の課題だが、導線案内の工夫が必要である。
	企画展示	○27年度の「越後人のねばり」に続き、越後人シリーズとして「出版文化と越後人」を開催できた。 ○井上井月など県内ではほとんど知られていない、または忘れられてきた文人を紹介できた。 ○企画展示で作成した相関図が来館者に好評いただいている。	■県内顕彰館や団体との協同企画展示ができるよう準備を進めたい。 ■25年度からの課題だが、出展する顕彰施設や団体のPRが出来るよう、年間広報計画を立案し、早めに広報展開できるよう仕組みを作る必要がある。
教 育 普 及	イベント、 講演・解説	○井上井月展でジュニア俳句大会を開催したことで、SNSで発信し始めた。それにより、県外のジュニア俳人(主に高校生)から投句いただいた。	■ジュニア俳句大会を急遽開催を決定したため、広報が遅れ応募状況が芳しくなかった。
	顕彰施設 及び団体 との連携	○各施設や団体よりパンフレット設置、画像提供等での協力を得た。 ○当館でのPR展示をきっかけに、少しずつだが、顕彰施設や団体との協力体制がとれるようになってきている。	▲県内顕彰施設の休館等の情報を掲示し始めた。 ■各施設や団体への連携や協力を仰ぐため、早めに依頼したり相談したりできるよう仕組みづくりや準備を進めたい。 ■昨年度からの課題だが、県内顕彰施設の来館者増を図るためのツール(印刷物など)の作成が必要。
	副読本	○副読本パンフレットを作製したことで、副読本活用のPRができた。	■昨年度からの課題だが、副読本活用のための仕組みづくりを進めたい。
	人物選定 委員会		■25年度から事業計画に挙がっているが、立上げ準備ができていない。31年度以降の発足を目指してスケジュール案を作成する。
調 査 ・ 研 究		○企画展示にあわせて、文化人の調査ができた。	▲文化人データベース構築の準備を進めている。
広 報		○開設しただけだったFacebookを使い、発信し始めた。それにより、SNSを閲覧する世代にも見てもらう機会を得た。 ○ホームページに「維持会」、「刊行物」、「ミュージアムショップ」のページを追加	■昨年度からの課題だが、PR展示と連動した、効果的な広報計画を進めたい。 ■機関誌やホームページなど発信し続けることによる活動状況を普及させることが課題である。

	した。それにより、機関誌のダウンロードが可能となった。	
--	-----------------------------	--

【参考資料】 ◇主な来館者（来館順に掲載）

個人・団体（行政・企業等）	<p>〔4月〕新潟県県民生活・環境部文化振興課・小川祐輔参事、佐藤まり子政策企画員、ダイヤモンド社OB金田英一氏、新潟県議会・池田千賀子議員、長岡新聞社・土井清史記者、江戸千家家元・川上宗雪宗匠、茶道江戸千家新潟支部長・中野宗順氏、NCV・小山莉津子氏</p> <p>〔5月〕一般社団法人杉本鉞子研究会・樋口敬子氏、新潟県・米山隆一知事、新潟県秘書課・湯田渉副参事、新潟県県民生活・環境部文化振興課・高橋真知子課長、小川祐輔副参事、佐藤まり子政策企画員、新潟良寛会・柳本雄二会長、県立図書館・青柳正俊副館長、株式会社ダイヤモンド社・小笠原秀雄管理部長、同社OB・金田英一氏、鶴見大学・和泉久子名誉教授</p> <p>〔6月〕新潟大学・加藤僖一名誉教授、新潟大学人文学部・石田美紀准教授、日本美術院同人・大矢紀氏、北海道新聞社・鶴井亨取締役事業局長、河北新報社・鈴木伸一取締役事業担当、東京新聞・松川貴事業局長、中日新聞社・加藤宏幸名古屋本社事業局長、神戸新聞社・門野隆弘執行役員地域活動局長、中国新聞社・江口淳事業情報センター次長、琉球新報社・新垣順基営業局長</p> <p>〔7月〕作家・新井満氏、新潟市文化スポーツ部・中野力部長、世田谷美術館・酒井忠康館長、神奈川県立近代美術館・水沢勉館長、名古屋市美術館・角田美奈子氏、東京都写真美術館・三井圭司氏、読売新聞社事業局美術館連絡協議会・大谷一奈事務局長、矢崎秀行氏、春城会・小泉豊信会長、ネットワーク協議会参加者10名（新潟県県民生活・環境部文化振興課・柴田豊課長補佐、巻菱湖時代記念館・磯島俊瑛顧問、阿賀野市立吉田東伍記念博物館・渡辺文男元館長、湯沢町歴史民俗資料館「雪国館」・貝瀬健太館長、県立図書館業務第二課・野澤篤史課長代理、新潟県博物館協議会・徳永健一顧問、新発田市文化団体連合会兼青山杉作を偲ぶ会・真島麗二会長、新潟市文化スポーツ部文化政策課・長浜達也課長、燕市長善館資料館・倉橋忠夫館長、燕市教育委員会社会教育課・布施智也主任、春城会・小泉豊信会長）、一般社団法人井上井月顕彰会・北村皆雄会長、とねりこジュニア句会・織田亮太郎主宰、早稲田大学會津八一記念館2名、信濃毎日新聞社・井上裕子編集局次長兼文化部長、良寛研究家・小島正芳氏、日報連載「押入れの中の文化財」著者・山田俊幸氏、小学館出版局・矢沢寛氏、平出修研究会・折笠正弘事務局長</p> <p>〔8月〕伊那市教育委員会事務局文化振興課・樽澤永理氏、作家・中島欣也氏、伊那市創造館・捧剛太館長、新潟市美術館・塩田純一館長</p> <p>〔9月〕早稲田大学・鎌田薫総長、佐々木豊総長室交友課長、仲川広本庄総合事務センター調査役、稲門会新潟県支部・北村泰作支部長、田村元人幹事長、新潟市稲門会・富山修一会長、東京予防医学協会・高橋智也主査、山下透主査、笹沼労働衛生コンサルタント事務所・笹沼章良氏、長谷川泰を語る会・恩田富太氏、イラストレーター・おんだちかこ氏、栃倉酒造・栃倉恒栄代表取締役、一社茶道文化振興会・北見宗幸理事長</p> <p>〔10月〕春城会・小泉豊信会長、北九州市議会・渡辺徹議員、中島隆治議員、富士川厚子議員</p> <p>〔11月〕佐渡市立佐渡博物館・高藤一郎平館長、新潟大学・高橋姿学長、新潟市潟東歴史民俗資料館・中島栄一館長、</p> <p>〔12月〕名古屋外国語大学・亀山郁夫学長、一般財団法人光文文化財団職員、東京工業大学・池川信夫名誉教授、新津カントリークラブ・神田専務取締役</p> <p>〔1月〕新潟国際情報大学・平山征夫学長、一般財団法人新潟経済リサーチセンター・駒野忠宏部長、クロスパル・五十嵐政人館長</p> <p>〔2月〕新潟県教育庁文化行政課文化係・近藤瞳主任、長嶋圭哉主任学芸員、駒形十吉記念美術館・村山稔館長、新潟ライオンズクラブ双葉賞受賞校（小学生15名、中学生5名、引率等9名）、新潟市新津美術館・横山秀樹館長</p> <p>〔3月〕湯沢町歴史民俗資料館「雪国館」・貝瀬健太館長、新潟南ロータリークラブ・富山修一会長ほか9名様、評論家・若松英輔氏、原田玉栄氏、長岡新聞社・土井清史氏、島根県立大学・井上厚史教授、三人社・越水治代表取締役、山本捷馬氏</p>
ご遺族	駒形十吉ご遺族、石山賢吉ご遺族、長谷川巳之吉ご遺族、荻野久作ご遺族、関屋俊彦ご遺族、堀口大學ご遺族
団体観覧（一般）	<p>〔6月〕太平第二自治会 19名</p> <p>〔8月〕とねりこジュニア句会 4名</p> <p>〔9月〕新潟日報カルチャーセンター11名</p> <p>〔10月〕新発田市天王元気会 26名</p> <p>〔3月〕新潟日報カルチャーセンター10名</p> <p style="text-align: right;">計5団体（70名）</p>

<p>団体観覧 (学校) ※引率者 を含む ※太字は 27年度ま たは28年 度から来 館してい る学校</p>	<p>[4月] 新潟市立中野小屋中学校 2年生 4名、新潟市立関屋中学校 2年生 33名、新潟市立東新潟中学校 2年生 17名、新潟市立大江山中学校 2年生 5名、新潟市立金津中学校 2年生 4名 [5月] 新潟市立月潟中学校 2年生 5名、新潟市立坂井輪中学校 2年生 24名、新潟市立新津第二中学校 2年生 28名、新潟市立葛塚中学校 2年生 20名、新潟市立大形中学校 2年生 10名、新潟市立白井中学校 1年生 18名 [6月] 新潟市立木戸小学校 6年生 15名、長岡市立江陽中学校 2年生 5名 [7月] 柏崎市立西山中学校 3年生 10名、新潟市立小針中学校 2年生 20名、福島県喜多方市立第二中学校 2年生 9名、明訓中学校 3年生 9名 [8月] 新潟大学人文学部・橋本博文教授、文化財学集中講義受講生 19名 [10月] 新発田市立本丸中学校 1年生 20名、阿賀野市立水原中学校 2年生 6名、新潟市立中之口中学校 1年生 5名、新発田市立猿橋中学校 1年生 5名 [11月] 県立十日町高校書道部 12名、県立三条東高校書道部 9名、村上市立神納中学校 2年生 12名、新潟市立小瀬小学校 6年生 9名、新潟市立濁川小学校 6年生 7名、新潟市立金津中学校 5名、三条市立月岡小学校 5年生 66名 [3月] 新潟市立白南中学校 1年生 4名</p> <p style="text-align: right;">計 30校・団体 (416人)</p>
--	--